

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	グルーミング演習	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	theory og grooming	開講期間	通年	必選区分	選択必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	ノースウェルチャコにてトリマーとして勤務 ドッグショー業界でも活躍				
授業の概要・目的	トリマーになるための基礎知識をつける。犬種ごとのトリミングを理解する理論と実習を関連付ける。				
到達目標	犬種に合わせたグルーミングでの対応ができるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	導入教育グルーミングの各作業の内容	16	プードルのスタイルティディベアカットの理解		
2	骨格のしくみと犬の取り扱い クリッピングの必要性	17	プードルの顔バリエーション		
3	ドールでの犬のブラッシング基礎の取得	18	長毛種のはさみで仕上げるショートカット		
4	中短毛、長毛種犬の足の形つくりを理解する	19	グルーミングドールでのリボン付け		
5	ポメラニアンの基本カットについて理解する	20	リボンづくり		
6	長毛種の顔のカット・ヨーキーの耳バリカンを理解する	21	グルーミングドールでのりぼんづけ		
7	ポメラニアンをくまさん風にするサマーカットを理解	22	ポメラニアンを柴犬風・ライオンカットの理解		
8	ドールのブラッシング	23	プードルのフラット・コンプレックスパターンを理解		
9	プードルのスタンダードを理解する	24	2体目のドールブラッシング最終仕上げ 1体目カット仕上げ		
10	クリッパーによるサマーカットを理解する	25	イラストでのプードルスタンダードに基づいた形作り		
11	プードルのスタイルケネルクリップを理解する	26	ドールコンテストに向けてのケネルの復習		
12	B級検定筆記試験にむけての対策	27	ドールコンテストに向けての復習仕上げ		
13	B級実技の模擬練習として1人1頭ベーシック	28	ドールコンテスト		
14	前期のまとめ 筆記試験	29	B級実技試験 1人1頭 110分ベーシック		
15	前期学習内容の総括を行う	30	筆記テスト 1年間の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える				
教科書・テキスト	グルーミング理論テキスト・プリント				
参考書	なし。				
評価方法・基準	試験と出席日数に基づく				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	介助犬トレーニング	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Service Dog Training	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的	<p>介助犬を中心に身体障害者補助犬についてのトレーニングをまなぶ。一般のトレーニングとことなり、社会において法の下で活動をする犬の社会的責任を理解し、その責任を全うできる犬をトレーニングするスキルと知識を身に着ける。</p>				
到達目標	<p>介助犬をトレーニングするうえで、使用者の障害や環境に合わせたその人に必要な項目を見出し、その項目のトレーニング計画を自ら立てることができる</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	道具などの準備物授業内容について	31・32	介助犬デモンストレーションを見て動作ポイントを知る		
3・4	年間通しての担当犬決め	33・34	介助動作1項目を選び、計画を立てる		
5・6	担当犬の性質・課題の見極め	35・36	計画を立てた通り担当犬でためす		
7・8	課題に対してのトレーニング計画	37・38	トレーニング計画再考		
9・10	講師指導の下、トレーニング計画見直し	39・40	課題のゴールを理解する/車いすで基本トレーニング		
11・12	基本トレーニング(座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼)計画の下行ってみる①	41・42	課題を犬の視点で考える/車いすで基本トレーニング		
13・14	基本トレーニング(座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼)計画の下行ってみる①	43・44	動作をおしえるための「ほめ」のポイント/車いすで基本トレーニング		
15・16	トレーニング計画再考	45・46	トレーニングのステップアップの仕方について/車いすで基本トレーニング		
17・18	座れ、、、1視符1声符で行う	47・48	犬の自信のつけ方について/車いすで基本トレーニング		
19・20	伏せ、、、上記と同じ	49・50	動作確認/車いすで基本トレーニング		
21・22	まで、、、伏せ、座れ各々10分以上キープ	51・52	通年課題を車いすでおこなう		
23・24	脚側歩行、常歩で直進できる	53・54	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ内容考察		
25・26	上記4項目復習	55・56	引継ぎリハーサル		
27・28	前期まとめ	57・58	後期まとめ		
29・30	前期の振り返り	59・60	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	毎回のトレーニング計画の振り返り、計画のたてなおし、課題を明らかにして授業にのぞむ				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率40%通常点40%実技20%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	家庭犬インストラクター	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名		開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
実務経験概要	JAHA家庭犬しつけ方インストラクター 犬のしつけ方教室、犬の幼稚園POP DOG代表				
授業の概要・目的	褒めてしつけるトレーニング方法によって基本的なしつけを学ぶ。				
到達目標	「JAHA」家庭犬マナーチャレンジテストを通して飼い主と愛犬がともに幸せに暮らしていくことを学ぶ。				
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	オリエンテーション	16	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 診察台		
3・4	マナーチャレンジテストについて	17	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 歯のお手入れ		
5・6	マナーチャレンジテスト家庭内マナー ブラッシング	18	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 健康チェック		
7・8	マナーチャレンジテスト家庭内マナー 足拭き	19	マナーチャレンジテストの実技		
9・10	マナーチャレンジテスト家庭内マナー おいで	20	マナーチャレンジテストの実技		
11・12	マナーチャレンジテスト家庭内マナー 足下でのふせ・まて	21	マナーチャレンジテストの実技		
13・14	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 他犬とのすれ違い	22	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
15・16	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 扉の出入り	23	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
17・18	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 他の人とのあいさつ	24	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
19・20	マナーチャレンジテストお散歩のマナー リードをたるませでの散歩	25	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
21・22	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー ハウス	26	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
23・24	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー 飼い主に集中	27	マナーチャレンジテスト		
25・26	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー おすわり・まて	28	発表会練習		
27・28	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー 社会化	29	発表会練習		
29・30	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 犬を預ける	30	発表会		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	毎回飼い主さまへのノートをコピーして提出				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	授業内評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	トリミング演習Ⅱ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Grooming II	開講期間	通年	必選区分	必修選択
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	150(10)
実務経験概要	専門学校卒業後、ペットショップでトリマーとして勤務。 平成25年～ 関西で数多く出店する大型ペットショップにトリマーとして勤務。現在に至る。				
授業の概要・目的	飼主様の要望に応えつつ、短時間でグルーミングができるようになることを目標に技術、犬のコントロール、心構え、知識を身に付ける				
到達目標	ECOグルーミング検定A級合格 就職時に必要な犬種のトリミング技術を身に付ける				
授業計画(テーマ・内容)					
1	技術レベルの確認。二人で1頭仕上げる	16	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる①		
2	業界研修に向けてベーシック強化	17	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる②		
3	業界研修に向けてベーシック強化と時間短縮	18	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる③		
4	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる①	19	一人で1頭2コマ半で仕上げる		
5	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる②	20	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ①		
6	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる③	21	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ②		
7	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる④	22	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ③		
8	ミニチュアシュナウザーのモデルグルーミング	23	A級検定		
9	様々な犬種のトリミング技術を覚える①	24	就職に向けて効率アップと時間時間①		
10	様々な犬種のトリミング技術を覚える②	25	ビションフリーゼのモデルグルーミング		
11	様々な犬種のトリミング技術を覚える③	26	就職に向けて効率アップと時間時間②		
12	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける①	27	就職へ向けて各技術をより短時間でこなせるようになる③		
13	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける②	28	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す①		
14	総括・授業内評価・スピード、手際、コントロール意欲	29	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す②		
15	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける③	30	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す③		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモをもとに、グルーミングノートを作成する				
教科書・テキスト	JESCグルーミングテキスト				
参考書	JKC全犬種標準書				
評価方法・基準	授業内評価 出席率、技術、手際、学習意欲、授業への取り組み方、提出物、授業準備や掃除などで評価。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	キャットグルーミング演習	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Cat Grooming	開講期間	通年	必修区分	必修選択
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的	犬と違う猫のグルーミングを学ぶ				
到達目標	犬と猫のグルーミングの違い、保定、飼い主とのコミュニケーションを習得する				
授業計画(テーマ・内容)					
1	猫のシャンプーの流れを細かく説明する	16	1名で1頭をグルーミング(縫れの取り方)		
2	学校の猫をモデルグルーミングする	17	1名で1頭をグルーミング(縫れの取り方)		
3	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)①	18	1名で1頭をグルーミング(尾の脂の取り方)		
4	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)②	19	1名で1頭をグルーミング(尾の脂の取り方)		
5	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)③	20	1名で1頭をグルーミング(重曹の使い方)		
6	2名で1頭をグルーミング(グープの使い方)	21	1名で1頭をグルーミング(重曹の使い方)		
7	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)①	22	1名で2頭をグルーミング(爪の間の脂分の取り方)		
8	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)②	23	1名で2頭をグルーミング(爪の間の脂分の取り方)		
9	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)③	24	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)①		
10	1名で1頭をグルーミング(濯ぎの状態を目・手で感じるようになる)①	25	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)②		
11	1名で1頭をグルーミング(濯ぎの状態を目・手で感じるようになる)②	26	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)③		
12	1名で1頭をグルーミング(保定)①	27	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)④		
13	1名で1頭をグルーミング(保定)②	28	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)⑤		
14	1名で1頭をグルーミング(ノート提出)①	29	講師のチェックなしで最後まで仕上げる		
15	1名で1頭をグルーミング・総括・振り返り	30	総括・振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業ノートまとめの提出				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	授業の評価は課題試験の成績、出席点、復習問題実施提出などを含む平常点で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	基礎獣医	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Basic Veterinary Medicine	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	45(3)
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。また現在、往診専用クリニックの設立準備中。				
授業の概要・目的	犬の身体を解剖学・生物学的に理解し、また主な疾患の知識を得ることによって安心・安全なトレーニングに臨めるようにする。また必須とされる予防や基本的な症状への対応法を覚えること。				
到達目標	獣医内科・外科ほか各科疾患はもとより病原性微生物(感染症)や食餌、また現場で絡む関連法規に至るまでの知識を持つことにより、飼い主様からの信頼が高まるようになること。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスと身体について(マクロ視)	16	頭蓋と眼科		
2	身体について(ミクロ視)	17	耳鼻咽喉科		
3	狂犬病	18	歯牙科		
4	病原性微生物ならびに混合ワクチンについて	19	呼吸器科		
5	薬学について、病理学について	20	泌尿器科		
6	栄養学とフード、サプリメントについて	21	皮膚科		
7	寄生虫総論と血液検査	22	皮膚科		
8	画像検査	23	生殖器科		
9	消化器科	24	泌尿器科		
10	消化器科	25	整形外科		
11	循環器科	26	神経科		
12	循環器科	27	乳腺腫瘍、ヘルニアなど		
13	情報伝達(神経、内分泌、サイトカイン)	28	東洋医学、処方食など		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	全期振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	イラストでみる犬の病気(講談社)				
評価方法・基準	評価は筆記試験100%(最高100)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	陽性強化	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Dog Training	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	38年石田イヌネコ病院にて動物看護師・家庭犬インストラクターを行う				
授業の概要・目的	人と動物(犬)との絆を大切に考え、動物福祉を考えた家庭犬のしつけ方を伝える				
到達目標	社会人としての大切なご挨拶、人前で話すことを含め、トレーニングの知識を身に付ける				
授業計画(テーマ・内容)					
1	陽性強化とは、実技グループ分け、自己紹介	16	トレーニングタイプ、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
2	犬とはなにか?リードとカラーの説明、強化子、アイコンタクト(体をさわる・ほめ方)	17	4つのD、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
3	ボディランゲージ、ハンドマグネット、ハンドターゲット	18	Yes、ほめ言葉、アッ、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
4	犬のストレス、おいで	19	シェーピング(人、犬)、クリッカー		
5	犬との生活、おすわりOK	20	トリック		
6	ハンドシグナル、ふせ→OK(指示語)	21	遠隔トレーニング		
7	散歩を楽しく、一緒に歩く	22	家庭犬マナーチャレンジ(JAHA)		
8	イスを使用してアジリティ	23	優良家庭犬テスト		
9	ヒールポジション	24	優良家庭犬テスト		
10	ケージトレーニング(お留守番トレーニング)、立って	25	フリースタイル		
11	トイレトレーニング、ごほうびの後出し	26	パピークラス		
12	マットトレーニング、ごほうびの後出し	27	フリースタイルorトリック発表		
13	前期実技まとめ予習	28	後期実技まとめ予習		
14	前期実技まとめ	29	後期実技まとめ		
15	前期振り返り復習	30	後期振り返り復習		
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	テリー先生				
参考書					
評価方法・基準	実技100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	補助犬トレーニング I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Assistance Dog Training I	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的	<p>身体障害者補助犬をとりまく環境、介助犬がどのような役割をになっているのか基本的な知識を習得する。トレーニングにおいては「犬」という生き物を理解していくうえで基本となる人間の理解とは異なること、犬の物事も理解の仕方、関係の持ち方を体験する。</p>				
到達目標	<p>犬にモノというモチベーターというもの、罰を用いずに犬との関係を持つことを目指すことで犬のトレーニングの積み上げ方の難しさを経験し、「ほめ」のタイミングを習得する</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業について	16	後期担当犬決め		
2	介助犬デモンストレーション	17	課題きめ 介助動作 フードも使用可能		
3	道具の使い方について	18	訓練計画をたてる		
4	犬をさわってみよう 前週学習した内容の実技	19	訓練計画にもとづき訓練 フードの選び方		
5	担当犬決め 自分が第一印象で決めてみる	20	訓練計画にもとづき訓練 フードの使い方		
6	自分たちで犬をだしてみよう ハウスの出し入れ、カラーサイズ合わせ	21	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について①		
7	課題きめ 前期残り6コマで何が教えられるか考えてみる、計画	22	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について②		
8	犬をふりむかせてみよう 犬の興味の取り方 フードは使わず	23	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 意識して		
9	ほめてみよう フードを使わずに犬に喜びを伝えてみる	24	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 無意識に		
10	コマンドを与えてみよう 犬の興味を引きコマンドをさせてみる。ほめる	25	訓練計画にもとづき訓練 介助犬として到達点の理解		
11	計画を振り返り、再考	26	訓練計画にもとづき訓練 計画再考し訓練の取捨選択		
12	課題トレーニング①	27	訓練計画にもとづき訓練 訓練		
13	課題トレーニング②	28	訓練計画にもとづき訓練 後期復習		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	振り返り	30	年間振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	事前に訓練課題を明らかにしてくる 事後は訓練の見直し 用意する訓練シートに必ず記入する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率45%通常点10%実技テスト45%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育飼養管理	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	犬の飼育飼養管理	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Breeding Management of Dog	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	犬のトレーニング施設アニマルファンシアーズクラブ(AFC)で4年半トレーニングについて学び、独立。14年間、家庭犬しつけインストラクターとして基本的なしつけ、アジリティ、フリースタイルや訪問レッスンなどを行う。				
授業の概要・目的	犬を扱う上で環境整備や健康管理、観察力を身に付けることは必須				
到達目標	健康チェックやお手入れをする意味を理解し、一人で一頭を仕上げるレベルになること。また犬を管理するリスクマネジメントをプロと同じ目線でできるようにする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業に必要な物品、トイレの作り方、クレーとの掃除の仕方などを覚える。	16	一人でお手入れをする。①ブラッシング		
2	カラーの付け方、調整方法、リードの持ち方を理解する。	17	一人でお手入れをする。②歯磨き		
3	クレートから犬を出し入れする時に気を付ける事、ハンドリングを理解する。	18	一人でお手入れをする。③目の周りのお手入れ		
4	犬のサインを理解する(カーミングシグナル、ボディランゲージ、鼻先管理)	19	一人でお手入れをする。④爪切り		
5	トレーニング道具を知る(トリーツ、ハーネス、ジェントル、知育玩具、おもちゃ、ビターアップルなど) 犬を飼うということ、距離感を理解する。	20	簡単なハンドリングを実践する。①ヒーリング		
6	犬の触り方、アプローチ方法を理解する。お手入れにおける犬の身体のしくみについて理解する。	21	簡単なハンドリングを実践する。②誘導を使った動き(トリック)		
7	お手入れを嫌がらない犬にするためにすべきことを理解する。(身体のどこでも触れるようになる。抱っこ)	22	簡単なハンドリングを実践する。③動きながらトリックを入れる		
8	お手入れ道具について知る。お手入れの必要性を理解する。	23	アジリティ①ジャンプの教え方の理解し、実践する。		
9	ブラッシング方法を理解する。	24	アジリティ②連続ジャンプ		
10	歯磨き方法を理解する。	25	アジリティ③トンネルの教え方の理解し、実践する。		
11	ブラッシング、歯磨き方法をより深く学ぶ。	26	アジリティ④カーブトンネル		
12	目と目の周りのお手入れについて理解する。	27	アジリティ⑤ジャンプとトンネルの組み合わせ		
13	耳のお手入れについて理解する。	28	アジリティ⑥ジャンプとトンネルの組み合わせ		
14	爪切り方法の理解。(爪切りまでの導入)	29	アジリティ⑦シーケンス		
15	爪切り方法の理解。(爪切りまでの導入)	30	アジリティ⑧シーケンス		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は実技試験60%、出席率40%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	警察犬トレーニング I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Police Dog Training I	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名					
実務経験概要	警察犬訓練所で5年実務経験を積んだのち家庭犬訓練士、警察犬訓練士の資格を取得。 独立開業し警察犬訓練所を11年運営し現在も警察犬訓練士として活動中				
授業の概要・目的	<p>犬は体のサイズのバラエティーがとても豊富で活発な大型犬と小型犬では必要なスキルが大きく違う。トレーナーに限らず、トリマーや、動物看護師など犬の仕事に就く際に大型犬に触れる機会は多い。体重が2～3キロ程度の小型犬では容易にコントロールできることが体重が40キロ～50キロの大型犬では難易度が跳ね上がる。そのため将来犬の仕事に就く為には大型犬に慣れていることが求められる。また警察犬の訓練は犬の本能を利用しているため他の仕事に従事している犬や一般家庭犬にも通じるトレーニング理論が存在する。本開講科目では警察犬訓練所に在籍している主に訓練済みの大型犬を使用し、そのコントロールを習得する。講義では警察犬の特殊な能力はどのような本能や習性、心理から得ることが出来るのかを理解する。具体的な訓練方法を理解する。</p>				
到達目標	警察犬訓練所に在籍している訓練済みの大型犬を使用しコントロールを取れるようになる。犬の本能、心理、習性について記述できるようになる。具体的な訓練方法を説明できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	警察犬種について理解する/訓練道具の使用方法を理解する	16	しつけと訓練の関係を理解する/リードの有無でのコントロールの違いを理解する		
2	犬の性格タイプについて理解する/リードを正しく持てるようになる	17	トイレットレーシングを説明できるようになる/クランクコースを脚側行進でできるようになる		
3	本能について理解する/停座させられるようになる	18	ボディコントロールを説明できるようになる/リード無しの停座ができるようになる		
4	心理について理解する/伏臥させられるようになる	19	ハウストレーニングについて説明できるようになる/リード無し停座で待たすことができるようになる		
5	犬体各部の名称を理解する/立止させられるようになる	20	吠え声のコントロールを説明できるようになる/リード無しで脚側行進ができるようになる		
6	骨の名称を理解する/停座で待たすことができるようになる	21	リーダーウォークを説明できるようになる/指示された行動を犬に取らすことができるようになる		
7	歯の働きについて理解する/伏臥で待たせることができるようになる	22	集中力とモチベーションの関係を理解する/声符のかけ方を理解する		
8	犬の成長について理解する/脚側停座が出来るようになる	23	停座の教え方を説明できるようになる/誘惑にかかわらずに犬をコントロールできるようになる		
9	社会化期と訓練期を理解する/アイコンタクトが取れるようになる	24	伏臥の教え方を説明できるようになる/褒めと叱りの関係を理解する		
10	血統書について理解する/招呼ができるようになる	25	立止の教え方を説明できるようになる/正しく褒められるようになる		
11	優性遺伝と劣性遺伝について理解する/モチベーションの効果的な使い方を理解する	26	脚側停座、行進の教え方を説明できるようになる/正しく叱れるようになる		
12	ワクチンと社会化の関係を理解する/脚側行進で歩けるようになる	27	物品持来の教え方を説明できるようになる/高い表現力を求められるようになる		
13	犬の繁殖について理解する/訓練中の感情表現について理解する	28	障害飛越の教え方を説明できるようになる/緊張感のある中で行えるようになる		
14	前期内容のまとめ	29	後期内容のまとめ		
15	前期内容の振り返り	30	後期内容の振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内で質問を予告し、次の授業で答えさせる				
教科書・テキスト	無し				
参考書	無し				
評価方法・基準	筆記試験33%実技試験33%出席率33%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	家庭犬トレーニング	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Home Dog Training	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	K9クラブ愛媛3年勤務、K9クラブ大阪11年勤務				
授業の概要・目的	<p>K9クラブ大阪のトレーニングに基づいて、服従訓練の基礎を学ぶ。  観察眼を養うことで、動物の気持ちや体調の変化にいち早く気付くスキルを身に付ける。  オーストラリア式の訓練方法で指示は英語。色でクラス分けをし、各クラスで規定の課題があり、テストに合格したら昇格する。  青組のテストを合格すると、修了書を授与する。  上のクラスになるにつれ課題の難易度がアップし、課題数が増える。  白:ヒール、シット、コントロール、シットステイ ピンク: 白の課題+スタンド 黄色: ピンクの課題+ダウン、イグザミネーション、スタンドステイ、ダウンステイ  青・黄色の課題+フイット、リコール、ウービング、赤・青の課題の精度アップ、オフリード</p>				
到達目標	<p>赤組になることが目標。犬のレベルに関わらず初めて教えるにはどうするかを学ぶ。  赤組になったらオフリードの訓練を始める。  担当犬の性格や素質を考慮しながらトレーニングを進めていく技術を身に付ける。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	挨拶、自己紹介、担当犬決め、犬と遊ぶ、トレーニングの説明	16	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
2	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(白の課題、テスト)	17	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
3	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(ピンクの課題、テスト)	18	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
4	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色の課題、テスト)	19	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
5	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色&青の課題、テスト)	20	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
6	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色&青の課題、テスト)	21	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
7	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)	22	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
8	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)	23	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
9	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)	24	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
10	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	25	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
11	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	26	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
12	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	27	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
13	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	28	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
14	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	29	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)		
15	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青&赤の課題、テスト)	30	1年間の振り返り、総まとめ、表彰		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	WHO's THE BOSS? ワンちゃん、君のボスは誰?				
評価方法・基準	出席率、授業態度、トレーニング技術等授業中の様子や態度を主に評価する 加藤、竹田でそれぞれ採点をし、二人の合計点数の平均値を点数とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルケア	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	食餌と栄養	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Diet and Nutrition for Animals	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医学科を卒業ののち、複数の動物病院にて臨床獣医師として、犬猫の一般診療に従事 現在はリハビリテーションや生活指導を中心として小動物臨床に関わる				
授業の概要・目的	<p>伴侶動物(ペット)が健康に過ごすために、食餌の管理は欠かせない大事な要素である。様々な種類のペットフードの他、手作り食など選択肢が多くあり、どれを選択するべきか迷うことも多い。各個体にあった食餌を選び、健康を管理していくためにはフードおよび栄養、疾患との関連などの知識が必要となる。本講義では犬および猫の食事管理のための栄養学的な基礎知識を理解し、適切な食餌の選択、管理方法、簡単な身体検査による体の状態を知る方法などについて学ぶ</p>				
到達目標	<p>身体検査やチェックにより動物の健康状態を推察できる。また各々の健康状態、ライフステージにあった食餌とはどのようなものかを理解し、適切なアドバイスをすることができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	栄養とは 犬および猫の食性と栄養バランス	16			
2	6大栄養素について	17			
3	動物における消化と吸収の仕組み 腸内細菌について	18			
4	身体検査とチェックポイント(BCS 便のチェック など)	19			
5	動物のライフステージ と 必要な栄養	20			
6	ペットフードと手作り食の違い	21			
7	犬および猫に与えてはいけない食材	22			
8	ペットフードの分類(形態 機能) と 表示	23			
9	必要カロリー、給餌量の決定方法 給餌方法とフードの切り替え方	24			
10	動物における肥満と減量	25			
11	食物アレルギーとは 食物アレルギーにおける食餌管理	26			
12	食事管理ができる疾患(糖尿病 尿石症 腎臓・肝臓・心臓 疾患 等)	27			
13	まとめ	28			
14	学習内容の総括	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	適宜 レポート、まとめなどの課題を与える ノートなどを元に内容を復習する(適宜確認を行う)				
教科書・テキスト	なし				
参考書	適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度、提出物の合計点で最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	猫学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンキャット	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Companion Cat	開講期間	通年	必選区分	選択必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的	<p>伴侶動物の中でも主に猫に関して、歴史や品種、飼育管理法、動物の生態について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>猫の飼い主に、解りやすく正しい知識を伝えるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーションを行う。純血種/MIXの定義・多胎性・肉食について理解する。	16	ブリーディング①(健康な猫をブリードするための知識)について理解する。		
2	LH/SH・Male/Femaleの性格、飼い方、その他の違い・アメリカンSHIについて理解する。	17	ブリーディング②(交配～出産まで)について理解する。		
3	猫と犬の違い①(習性・体型・運動感覚等)について理解する。	18	ブリーディング③(出産～産後の母猫のケア)について理解する。		
4	猫と犬の違い②(種類・繁殖機能等)について理解する。	19	ブリーディング④(育児～人口哺乳)について理解する。		
5	行動学①(体の造りによる行動)について理解する。	20	ブリーディング⑤(伴侶動物として、性格の良い猫に育てるための知識)について理解する。		
6	行動学②(猫独特の行動)について理解する。	21	カラー遺伝①(ソリッド・アグーチ・ポイントカラー)について理解する。		
7	CFA公認猫種DVD①を見る。	22	カラー遺伝②(優性色・劣性色)について理解する。		
8	CFA公認猫種DVD②(猫種別の分類)を見る。	23	カラー遺伝③(雌のみのカラー遺伝)について理解する。		
9	猫の健康チェック①を行う。	24	カラー遺伝④(両親から受け継ぐカラー遺伝)について理解する。		
10	猫の健康チェック②を行う。	25	老猫のケア①(高齢期の行動、体の変化)について理解する。		
11	アンリカンカールのスタンダードについて学ぶ。	26	老猫のケア②(家庭で出来ること)について理解する。		
12	ノルウェージャンホレストキャットのスタンダードについて学ぶ。	27	老猫のケア③(高齢期の病気)について理解する。		
13	猫の血液型(FNI 猫新生児溶血性黄疸)について理解する。	28	猫のシャンプー(犬と違うテクニック)を学ぶ。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	CFA公認猫種スタンダード訳本				
参考書	「猫の教科書」				
評価方法・基準	筆記試験・課題提出物・出席率にて総合評価。最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	卒業研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	卒業研究	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Graduation Study	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>2年間で身に付けた技術や知識を卒業研究・論文として発表し、まとめる力を付ける 自分の考えを人に伝えるコミュニケーション力をつける</p>				
到達目標	<p>卒業研究発表にて自身の取り組んだ活動や学びを発表できるようになる。 2年間の学びを振り返り論文としてまとめることができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	卒業研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16			
2	卒業研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17			
3	卒業研究の進め方 発表までの流れやスケジューリングの確認	18			
4	テーマ決め① 今まで学んだ事を総括して深掘したテーマをディスカッションで探す	19			
5	テーマ決め② 過去に発表されたり、研究された事例をPCで検索する	20			
6	実践学習① 自分のテーマに沿って仮説と実証実験スタート	21			
7	実践学習② 途中経過の報告とアドバイス	22			
8	実践学習③ 前回のアドバイスを受けて改良したものの発表・報告	23			
9	実践学習④ 前回のアドバイスを受けて改良したものの発表	24			
10	まとめ 卒業研究の発表に向けてまとめ作業	25			
11	発表準備 PCのパワーポイント作成	26			
12	発表事前準備 発表リハーサル・最終チェック	27			
13	卒業研究発表	28			
14	卒業研究発表ふりかえり	29			
15	卒業研究発表についてまとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜支持を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版				
評価方法・基準	卒業研究課題の発表・論文				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	IT		開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンピュータ演習 I		開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Computer I		開講期間	通年	必選区分	必修
講師名			授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要						
授業の概要・目的	<p>現在はICTの時代といわれ、通信技術を活用したコミュニケーションの発展は非常に目覚しく、多くの企業・職業分野だけではなく、一般家庭においても利用することが当たり前となっている。このような状況の中で、ICTを活用する能力を習得することの重要性は年々高くなっており、社会に出る前に習得していることが望ましい。本開講科目では、Word/Excelの基礎的な操作方法、さらに、インターネットを利用する上でのモラルやマナーを身につけ、学生生活だけでなく社会に出て必要とされる情報活用能力を修得する。</p>					
到達目標	<p>インターネット/SNSのメリットデメリットを理解し、適切に利用できるようになる。 Wordを活用して、ビジネス文書や表現力のある文書が作成できるようになる。 Excelを活用して、関数やグラフを使った資料が作成できるようになる。</p>					
授業計画(テーマ・内容)						
1	インターネットガイダンス インターネットを利用する上での注意点、COMポータルの使い方、理解度テスト	16	Excel Excelの基本操作			
2	Word Wordの基本操作	17	Excel 数式の作成			
3	Word 文書の編集	18	Excel 表の編集			
4	Word 表現力のある文書作成	19	Excel グラフ作成			
5	Word 図形の応用	20	Excel 印刷			
6	Word 表の作成	21	Excel さまざまな練習問題に取り組む			
7	Word さまざまな練習問題に取り組む	22	Excel課題作成 習得した機能を使って課題を作成する			
8	Word課題作成 習得した機能を使って課題を作成する	23	Excel ワークシートの操作			
9	Word Wordの便利な機能	24	Excel いろいろな関数			
10	Word SmartArtグラフィック	25	Excel データベース機能			
11	Word 文書をサポートする機能	26	Excel Excelの便利な機能			
12	Word その他の機能	27	Excel Excelの活用			
13	Word さまざまな練習問題に取り組む	28	Excel さまざまな練習問題に取り組む			
14	Word課題作成 前期に習得した機能を使って課題を作成する	29	Excel課題作成 後期に習得した機能を使って課題を作成する			
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示					
教科書・テキスト	Word2019/Excel2019(滋慶出版)					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価の割合は、実技課題60%、出席点30%、平常点10%とし、最高評価点数を100とする。					
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	業界研修	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	業界研修	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Business internship	開講期間	前期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>卒業年度に学生が目指す業界の企業またはそれに準ずる組織・施設・個人等(以下企業という)で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標の前に、社会人とは何かを実際の現場で学ぶことを目的としている。</p>				
到達目標	<p>①学生の業界へのイメージと現実とのギャップを軽減させる。  ②実際の業界現場での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを学ぶ。  ③社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学ぶ。  ④自らの「キャリア」をデザインできる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション:業界研修(インターンシップ)の重要性、参加基準	16			
2	具体的に研修先を考える前に、ECO業界の業種、職種についての理解を深める	17			
3	業界研修(インターンシップ)先の選定方法について	18			
4	業界研修希望届の記入方法、提出時期と全体の流れについて	19			
5	業界研修前の心構え、コミュニケーション、SNSについて	20			
6	インターンシップにあたっての履歴書について	21			
7	業界研修先決定後の事前訪問や事前連絡について	22			
8	業界研修(実習)中における職務、気を付けるべきこと(1週目)	23			
9	業界研修(実習)中における職務、気を付けるべきこと(2週目)	24			
10	業界研修終了直前での職務や気を付けること、自己アピール	25			
11	業界研修終了後に(研修先へ)すべきこと、その意義	26			
12	2週間の振り返り。業界研修日報のまとめ。報告書の作成	27			
13	クラスでの終了報告会の準備と、報告会	28			
14	クラスでの終了報告会	29			
15	まとめ	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜支持を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	特になし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ドッグビジネスⅡ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Dog BusinessⅡ	開講期間	前期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>犬のプロとして大切なことは、犬の知識および技術を持つことだけでなく、時にはその知識や技術を正しく飼い主に伝える必要がある。とくにトレーナーはインストラクターとしての能力も必要とされ、このスキルを身に付けていないと誤った指導により飼い主と愛犬の暮らしを悪い方向に導いてしまうこともある。</p> <p>この授業では、自身の持つ知識や技術を正しく伝えさらに飼い主と愛犬の関係をよくするスキルを、ドッグスポーツ「エクストリーム」の体験イベントの製作と進行を通じて身に付けることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>飼い主に対して分かりやすく正確に、感じよくドッグトレーニングを指導できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業の目的を案内。イベント日の発表。 エクストリームのプロモーション動画視聴・インストラクターの動画視聴。	16			
2	インストラクターとしての注意点。呼吸法。話し方。言葉選び。	17			
3	エクストリームの練習方法の解説。	18			
4	チーム決め。チームごとの役割分担決め。ブログ①執筆。	19			
5	担当機材の台本を仕上げる。ブログ②執筆。	20			
6	台本を持った状態で一度機材の前で実践し、台本を修正) ブログ③執筆。	21			
7	インストラクターの立稽古(立ち姿、ジェスチャーなどの確認) ブログ④執筆。	22			
8	インストラクターの立稽古(障害物ごと。台本を極力見ずに) ブログ⑤執筆。	23			
9	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑥執筆。	24			
10	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑦執筆。	25			
11	最終チェック(仕上げ) ブログ⑧執筆。	26			
12	イベント本番	27			
13	イベント本番	28			
14	イベント本番	29			
15	イベント本番	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	<p>基礎点50点、イベント本番の完成度をグループごとに30点満点で採点(欠席0点)。 提出物未提出は減点。各々の準備や当日の積極性により最大20点の加点あり。</p>				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	手話・点字	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Sign Language & Braille	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>聴覚障害者、視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである「手話」「点字」の基本的な使い方、表現を習得し、補助犬ユーザーになりうる視覚障がい者・聴覚障がい者に寄り添える人材を目指す。</p> <p>聴覚障害者、視覚障害者の生活上の困難な面やそれぞれの歴史についても学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話であいさつ、自己紹介、簡単な会話ができるようになる</li> <li>・点字を理解し、少しでも読み書きできるようになる。</li> </ul>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	点字 基本修得① 点字の基本を習得する。点字で50音書きができるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	16			
2	点字 基本修得② 点字で濁点・特殊音など書けるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	17			
3	点字 基本修得③ 点字で数字・ローマ字が書けるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	18			
4	点字 高度を取得する お店のメニューを点字で打つ。 盲導犬ユーザーの手引き	19			
5	点字 高度を取得する カラオケの歌詞を点字で打つ。 盲導犬ユーザーの手引き	20			
6	点字 高度を取得する 点字で自分の名刺を作る。 盲導犬ユーザーの手引き	21			
7	点字まとめ	22			
8	手話 自己紹介をしてみる。名前の表し方・色々な名前の表現をしる。	23			
9	手話 あいさつの覚える。あいさつと家族の表し方を理解する。	24			
10	手話 数字や時間の表現を覚える。 数の表し方・誕生日や時間の表し方を理解する。	25			
11	手話 趣味のことを話そう。趣味を工夫して表現してみる。	26			
12	手話 行きたい場所の表現を覚えよう。 都道府県、出身地の表し方を理解する。	27			
13	手話 自己紹介のまとめ 手話表現力の確認。	28			
14	手話 自分の名前や出身地、趣味の表し方を理解し、 クラスメイトの前で発表する。	29			
15	手話まとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中や、事後学習として適宜課題を与える				
教科書・テキスト	今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	エコ教養Ⅱ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Human Study Ⅱ	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>目標を明確にし、目指す職業に就きそこで活躍するための人間力、社会人基礎力にさらに磨きをかける。学校生活をスムーズに送るための人間関係構築、スケジュール管理、業界への理解を深めるため、イベントの準備から運営、グループワークを通してのディスカッションやコミュニケーション能力の向上、ホスピタリティを学ぶ。制作の創意工夫や自ら考える力をつけ、自主的に行動するくせを付ける。</p>				
到達目標	<p>学生自ら、(時間・スケジュール管理、健康管理、計画性など)あらゆる面において自己管理ができるようになる。クラスでの活動やイベントの取り組みを通して、人間関係を学び、精神的な成長を育んだり協調性を知り、社会で対応できるようになる。指示通り動くだけでなく、自ら先を見越して積極的に行動できるようになる。他人に対して、相手の立場に立ち思いやりを持った言動がとれる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	クラスオリエンテーション スケジュールリング(就職等)	16	後期スケジュール確認、卒業制作について		
2	仕事(経営・利益・顧客満足)をする意義を知る	17	社会人基礎力を学ぶ①(チームワーク)役割を理解し貢献する		
3	イベント企画(グループワーク)	18	学園祭準備①		
4	イベント企画(プレゼンテーション)	19	学園祭準備②		
5	イベント企画・実践に向けて	20	学園祭準備③		
6	アニマルコーディネーター練習問題①	21	社会人基礎力を学ぶ②(働きかけ)仲間の協力を得る		
7	アニマルコーディネーター練習問題②	22	社会人基礎力を学ぶ③(発想力)ひらめき、柔らか頭		
8	アニマルコーディネーター模擬試験	23	卒業研究発表会準備 方向性、発表内容確認		
9	スポーツフェスタ役割決め、出場種目等打ち合わせ	24	卒業研究発表会準備 内容確認①		
10	アニマルコーディネーター検定	25	卒業研究発表会準備 内容確認②		
11	卒業研究①取り組みの説明、グループ決め	26	卒業研究発表会準備 発表練習①		
12	卒業研究②グループでテーマ検討	27	卒業研究発表会準備 発表練習②		
13	卒業研究③研究の進め方、スケジュール提出	28	卒業後の心得① 社会人としての基礎		
14	前期まとめ	29	卒業後の心得② 業界における自分自身の役割		
15	前期振り返り	30	総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中や、事後学習として適宜課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率80%、提出物・イベント参加レポート20%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Sports Festa	開講期間	後期	必選区分	必修選択
講師名		授業形態	演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の準備等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。</p>				
到達目標	<p>スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につながるように記録を残す	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Open Campus	開講期間	前期	必修区分	必修選択
講師名		授業形態	演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	年間約100日開催されるオープンキャンパスの学生スタッフとして、来校者への接客・接遇を通じてホスピタリティを学び社会人として必要な顧客創造を身につける				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	IT	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	パワーポイント	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	PowerPoint	開講期間	通年	必修区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。</p>				
到達目標	<p>職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。また、職場において業務を効率化するためのITリーダーとなり、助言を出来るようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	PowerPoint① プレゼンテーションの概要を知る。基本操作が出来るようになる。	16	卒業研究① 卒業研究内容についてのレビュー 研究内容について、把握し、他に向けて説明が出来るようになる。		
2	PowerPoint② スライドへの図形・イラスト・写真の挿入が出来るようになる。	17	卒業研究② 卒業研究内容についてのレビュー 研究内容について、把握し、他に向けて説明が出来るようになる。		
3	PowerPoint③ スライドへの表やグラフ、Smartアートの挿入が出来るようになる。	18	卒業研究③ 卒業研究発表に向けての準備のため、データの集計方法などについて理解する。Excelのピボットテーブルを体感し、使えるようになる。		
4	PowerPoint④ スライドへアニメーション/画面切り替えなどの特殊効果を設定出来るようになる。	19	卒業研究④ 卒業研究発表に向けての準備のため、PowerPointと他のアプリケーション(WordやExcel)との連携方法を学び、出来るようになる。		
5	PowerPoint⑤ プレゼンテーションの実行方法を身に付け、発表者としてのスキルアップにつなげる。また、発表者用資料の作成方法を知る。	20	卒業研究⑤ 卒業研究発表に向けての準備のため、プレゼンテーションの種類・実施の流れ・方法や注意点を再度学習し、出来るようになる。		
6	PowerPoint⑥ 効率の良いスライドの追加方法や共通の変更の設定が出来るようになる。	21	卒業研究⑥ 卒業研究発表に向けて、データの収集や分担などを明確にし、各メンバーが、協力し、一つのプロジェクト達成へ向けて動けるようになる。		
7	PowerPoint⑦ メール使用方法。課題1の作成とメールでの提出が出来るようになる。	22	卒業研究⑦ 卒業研究発表に向けて、スライド内容や発表内容について、お互いの意見を校閲機能を使って、効率よく話し合う事が出来るようになる。		
8	PowerPoint⑧ 課題1の作成とPowerPoint利用の <b>迷子犬・猫のポスター</b> 作製に取り組み、PowerPointのスライドだけではない利用が出来るようになる。	23	卒業研究⑧ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
9	PowerPoint⑨ <b>課題2</b> 作成のため、デザインシートの作成が出来るようになる。	24	卒業研究⑨ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
10	PowerPoint⑩ 課題2作成のため、情報収集方法と著作権について学び、適切に情報収集が出来るようになる。	25	卒業研究⑩ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
11	PowerPoint⑪ 課題2作成と発表 発表者以外は、他の発表者への <b>評価シート</b> を作成する。	26	卒業研究⑪ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
12	PowerPoint⑫ 課題2作成と発表 発表者以外は、他の発表者への <b>評価シート</b> を作成する。	27	卒業研究⑫ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
13	PowerPoint⑬ 発表後の他の評価を参考に、課題2を修正し、再度発表する。 発表者以外は、再度評価シートに追記する。	28	卒業研究⑬ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
14	PowerPoint⑭ 発表後の他の評価を参考に、課題2を修正し、再度発表する。 発表者以外は、再度評価シートに追記する。	29	卒業研究⑭ 卒業研究発表のレポートを作成・提出する。また、卒業研究に取り組むことにより、学んだことを作文にして提出する。		
15	PowerPoint⑮ WordへExportする方法を学び、出来るようになる。その <b>Exportファイル</b> を提出する。	30	卒業研究⑮ 卒業研究発表のレポートを作成・提出する。また、卒業研究に取り組むことにより、学んだことを作文にして提出する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜、課題を与える。評価基準に含める。				
教科書・テキスト	PowerPoint2019テキスト(貸出)				
参考書					
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席評価 20%</li> <li>・提出物 70%</li> <li>・取り組み 10%</li> </ul>				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	IT	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	パワーポイント	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Power Point	開講期間	通年	必修区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ネットワークを介した様々なコミュニケーションツールが普及し、便利に利用され身近な存在となっているが、反面、トラブルも多発している。安全な利用をするために、情報モラルの意識を高め、ビジネススキルで必要とされるアプリケーションソフトウェアの操作を習得し、作業の効率化を図りITスキルの向上、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。</p> <p>・Microsoft Office Power Pointでは、図表などの各特長を理解し、研究成果のプレゼンテーションを行い自己表現力を身につける。  ・学生間で話し合いグループワークを行うことによりディスカッション能力を高める。</p>				
到達目標	<p>・情報を取捨選択しネットワーク活用技術能力を修得することを目標とする。  ・Microsoft Office Power Pointの操作技術を修得し研究成果の資料作成と発表を行うと共にプレゼンテーション技法に加え表現力を身につけることを目標とする。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ネットワーク情報に関する法律や規制などの概要について理解する。	16	プレゼンテーションの目的に応じ、データ収集、構成をまとめ、入念な準備を行うことを理解する。		
2	Power Pointの基本操作とプレゼンテーションを理解する。	17	プレゼンテーションの結論を先か後にするかの戦略を練り、ポイントを絞って視覚的に理解できる表現を目指すことができるようになる。		
3	図形・イラスト・写真の挿入し、表現力のあるプレゼンテーション作成を行うことができるようになる。	18	リハーサルの実施、時間配分、質疑応答の回答方法や対策を行い、不安点を解決し、言葉づかいなどプレゼンテーションテクニックを身につけることができるようになる。		
4	表を効率よく作成し、スライド内の情報を効果的に区切ることができるようになる。	19	リハーサルによる反省点を踏まえ、話しのスピード、非単語である無意味な発声、表情などプレゼンテーションチェックの評価をすることができるようになる。		
5	グラフを挿入し、グラフと表のリンクを理解し、構成要素を変更を行い、視覚的に表現できるようになる。	20	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。 発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
6	スライドマスタを利用し、プレゼンテーション全体のデザインを一括して管理できることを理解する。 特殊効果の設定	21	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。 発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
7	プレゼンテーションの目的を明確にし、伝達事項について、要点を正確に考察する。	22	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。 発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
8	データの収集と分析を行い、図表などを適切に使用し訴求力のあるプレゼンテーションを作成することができるようになる。	23	プレゼンテーションの実践により、聴衆者のフィードバックを確認し、構成の見直し、修正を行い、理解を深めることができる。		
9	Smart Art グラフィックを活用し文字列を図式化することによりデザイン性のあるプレゼンテーションを作成することができるようになる。	24	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
10	図形描画(オートシェイプ)など特殊効果を追加し、インパクトのあるプレゼンテーション作成を行い構成を整えることができる。	25	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
11	印刷配布の資料を作成し発表の準備を行い、リハーサルを実行し、時間配分の調整を行うことができるようになる。	26	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
12	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。	27	研究内容をノートにまとめ、情報の整理、レイアウト、配色を考え、図表などの視覚により効果的であることを理解する。		
13	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。	28	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
14	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。	29	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内容の各節目で適宜課題を実施し定着を図る。				
教科書・テキスト	COMPUTER BASIC for windows POWER POINT 2019				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は実技試験70%、出席率(受講態度含む)20%、課題10%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	進級研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	進級研究	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Promotion Study	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	1年間かけて修得した技術や知識の集大成として進級研究に取り組み進級制作展で発表する。				
到達目標	1年間の学習成果をパワーポイントやポスターなどを用いて説明できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	進級研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16			
3・4	進級研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17			
5・6	進級研究の進め方 テーマの決定、発表までの流れやスケジューリングの確認	18			
7・8	発表内容の制作と練習①	19			
9・10	発表内容の制作と練習②	20			
11・12	発表内容の制作と練習③	21			
13・14	発表内容の制作と練習④	22			
15・16	発表内容の制作と練習⑤	23			
17・18	卒業進級制作展リハーサル・準備	24			
19・20	卒業進級制作展リハーサル	25			
21・22	卒業進級制作展参加	26			
23・24	卒業進級制作展参加	27			
25・26	卒業進級制作展参加	28			
27・28	卒業進級制作展参加	29			
29・30	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜レポート・課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	犬学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンドッグ	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Companion Dog	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本講義については犬については約2万年前から人との密接な関係を続けてきた。その犬の性質を深く知る必要がある、講義では犬の問題行動の種類、犬の扱い方、繁殖の方法と犬の育て方、犬の関係で起きるトラブルの解決方法、犬の行動心理を詳しく知識を深め、犬の関係のトラブルの問題、法律解決方法、また犬種200種を学び、その個別の特性や特徴、成り立ちなどを知識を深める。講義の中では犬の観察力を高めるために鉛筆画デッサンの講義も行う。</p>				
到達目標	<p>犬と言う動物をしっかりと知り理解する、犬種は200以上の暗記、その為に犬種カードを作成する。犬の基本的な扱い方をしっかりとマスターする。デッサンについては最低一枚は犬のデッサンを完成させる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義の概要と講義の到達目標などの理解を深める。	16	犬の長命と人と犬との比較などを詳しく理解を深める。		
2	犬が行う仕事の種類、犬と人との歴史について深く知る。	17	犬種第6(大きな声と優れた嗅覚の猟犬)について深く知る。		
3	血統書の詳しい味方その役割、その問題点についても深く学ぶ。デッサンの方法と観察する意味の理解を深める。	18	新たに犬を飼う人へのアドバイスを詳しく学ぶ。		
4	問題駆動の種類を深く知る 種類が多いため二回に分けて詳しく理解を深める。	19	犬種第7(獲物を探し出しその位置を正確に示す)について深く知る。		
5	犬種第1G(家畜の群れを誘導・保護する犬)について深く知る。問題行動の種類を深く知る。	20	飼い主と非飼い主の違いはどこにあるのか、違いを理解し知識を深める。		
6	犬のトラブルについて法律的な知識を深める、多方面に渡るために二回に分けて講義を行う。	21	犬種第8(鳥類猟犬)について深く知る。		
7	犬種第2G(番犬、警護、作業犬)について深く知る。犬のトラブルについて法律的な知識を深める。	22	ペットロスは大きな問題の一つである。飼い主の心に寄り添えるためにはどうしたらよいかそれらをしっかりと共有し理解を深める。		
8	犬の繁殖について ①繁殖の方法論について詳しく知識を深める。	23	犬種第9(家庭犬、愛玩犬)について深く知る。		
9	犬種第3G(穴の中に住む小動物を狩る猟犬)について深く知る。犬の繁殖について②母犬の管理について詳しく知識を深める。	24	犬のトレーニングの原理原則を学びトレーニングの本質にも理解する。		
10	犬の繁殖について ③子犬の育て方と訓育の方法論について詳しく知識を深める。	25	犬種第10G(優れた視覚と獲物を追跡する犬)について深く知る。		
11	犬種第4G(地面に穴に住む動物を狩る猟犬)について深く知る。犬と近い狼について詳しく知識を深める。	26	犬の行動心理を三回に分けて行う。①行動の基本的な役割、条件付けの基本などの知識を深める。		
12	犬の体調管理と健康管理についてその方法論を詳しく知り理解を深める。	27	犬の行動心理を学ぶ。 ②弁別と生得成について詳しく学ぶ。		
13	犬種第5G(日本犬を含む原始的な犬)について深く知る。	28	犬の行動心理を学ぶ。 ③学習の基本的な考え方を詳しく学ぶ。		
14	犬種第1G～第5Gまでの統括を行う。	29	犬種第6G～第10		
15	前期学習内容の統括を行う。	30	後期学習の統括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	犬種カードは講義内では作成することは難しい、犬種の個別の解説を行い宿題としてカード作りの課題を出す。				
教科書・テキスト	とくになし				
参考書	犬種スタンダード図鑑				
評価方法・基準	講義後レポートを提出、評価は提出レポートと期末テスト内レポートで評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ドッグビジネス I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Dog Bussiness I	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>犬のプロとして大切なことは、犬の知識および技術を持つことだけでなく、時にはその知識や技術を正しく飼い主に伝える必要がある。とくにトレーナーはインストラクターとしての能力も必要とされ、このスキルを身に付けていないと誤った指導により飼い主と愛犬の暮らしを悪い方向に導いてしまうこともある。</p> <p>この授業では、自身の持つ知識や技術を正しく伝えさらに飼い主と愛犬の関係をよくするスキルを、ドッグスポーツ「エクストリーム」の体験イベントの製作と進行を通じて身に付けることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>飼い主に対して分かりやすく正確に、感じよくドッグトレーニングを指導できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業の目的を案内。イベント日の発表。 エクストリームのプロモーション動画視聴・インストラクターの動画視聴。	16			
2	インストラクターとしての注意点。呼吸法。話し方。言葉選び。	17			
3	エクストリームの練習方法の解説。	18			
4	チーム決め。チームごとの役割分担決め。ブログ①執筆。	19			
5	担当機材の台本を仕上げる。ブログ②執筆。	20			
6	台本を持った状態で一度機材の前で実践し、台本を修正) ブログ③執筆。	21			
7	インストラクターの立稽古(立ち姿、ジェスチャーなどの確認) ブログ④執筆。	22			
8	インストラクターの立稽古(障害物ごと。台本を極力見ずに) ブログ⑤執筆。	23			
9	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑥執筆。	24			
10	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑦執筆。	25			
11	最終チェック(仕上げ) ブログ⑧執筆。	26			
12	イベント本番	27			
13	イベント本番	28			
14	イベント本番	29			
15	イベント本番	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	基礎点50点、イベント本番の完成度をグループごとに30点満点で採点(欠席0点)。提出物未提出は減点。各々の準備や当日の積極性により最大20点の加点あり。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コミュニケーションスキル	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Communication Skills	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>コミュニケーションスキルアップ検定合格に照準をおき、プレ社会人として恥ずかしくない態度・考え方・行動ができるようにします。</p> <p>まず、コミュニケーションの大切さを認識し、①自分の存在を認めてもらう ②相手とのコミュニケーションの第一歩をスムーズにできるようにしていきます。また、サービスマインドを通して、相手(顧客)の立場を考えたサービスを学習し、社会に出て職業人になることを視野に入れステップアップし職業人として、表現力が問われる「伝える仕事」をこなせるように、自己表現スキルも学びます。就職に向けて社会人になるにあたっての意識の向上を図ります。社会が求める人材を認識し、基本姿勢を体感を通しての学びとし、効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解します。</p>				
到達目標	<p>サービスマインドを通して、相手(顧客)の立場を考えたサービスを学習します。また、社会に出て職業人になることを視野に入れステップアップします。職業人として、表現力が問われる「伝える仕事」をこなせるように、自己表現スキルも学びます。就職に向けて社会人になるにあたっての意識の向上を図ります。また、社会が求める人材を認識し、基本姿勢を体感を通しての学びとします。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション・3章 社会的ルールの適用について。また、自己表現 ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える	16	5章 サービスマインドとは? を学ぶ 3章 自己表現 人間関係を円滑にする表現技術＝伝達の大切さを改めて学ぶ		
2	2章 基本的対話 グループの大切さ・課題の仕方を学ぶ	17	3章 自己表現 人間関係を円滑にする表現技術＝上手な頼み方・上手な断り方を学ぶ		
3	1章コミュニケーションの定義2章基本的対話スキルとは何かを学ぶ	18	3章 自己表現＝自己主張の大切さを学ぶ		
4	4章社会的スキル 社会的スキルとは?言葉遣い(敬語の使い方)実際の言葉遣いにふれ、正しい言葉遣いを学ぶ	19	3章自己表現＝仕事の上で必要とされる表現技術・プレゼンテーションの基本を学ぶ		
5	4章社会的スキル 言葉遣いテスト/間違いやすい表現/クッション言葉・コミュニケーションを円滑にするための手法を学ぶ	20	3章自己表現＝「交渉」「説得」→アプローチの方法・アンガーマネジメント を学ぶ		
6	4章社会的スキル (前回の続きスピーチ)言葉で伝える＝伝達の大切さを学ぶ	21	問題に親しみ、コミュニケーションスキルアップ検定合格への繋ぎにする		
7	4章社会的スキル 言語的表現の中でのいろいろなCASE＝伝達＝電話対応の基本・応対の基本を学ぶ	22	キャリアプランを考える＝自己分析ワークをしながら、ポイントの整理と自分について考える		
8	4章社会的スキル 文書作成 基本的なフォーム・メール・ファックスの効用・文書を学ぶ ～その1	23	自己分析ワークをしながら、ポイントの整理と自己PRIに書き方を学ぶ		
9	4章社会的スキル ITリテラシー～実際のインターネット使用上の注意点をシートで学ぶ	24	自己分析・自己理解＝自分自身について考える		
10	5章サービスマインド CSIについて＝CASE問題を解きながら実際のコミュニケーションを学ぶ	25	プレ社会人としてマナーを身につける Case study 場面別ことば違い①		
11	5章サービスマインド サービスマインドとは?サービスの基本について学ぶ	26	プレ社会人としてマナーを身につけるCase study 場面別ことば違い②		
12	3章 自己表現 授業開始時の振り返り、ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える事を学ぶ ～ その1	27	プレ社会人としてマナーを身につける 慶弔①		
13	3章 自己表現 授業開始時の振り返り学び、ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える事を学ぶ ～その2	28	プレ社会人としてマナーを身につける 慶弔②		
14	まとめ 対策・解説を行う＝前期学習の学びを確認する	29	まとめ 対策・解説 後期学習内容の総括を行う＝1年間の学びを確認をする		
15	前期学習内容の総括を行い後期に繋げる	30	年間学習内容の総括を行い、2年生次の学びに繋げる		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業の中でのワークシート・課題の完成により、各自学習のまとめをする				
教科書・テキスト	コミュニケーションスキルアップ検定(滋慶教育科学研究所)・Life Style(株式会社慈慶教育事業部出版)				
参考書	入社1年目ビジネスマナーの教科書				
評価方法・基準	評価の割合・筆記試験70%＋平常点20%＋課題点10%＝最高評価点数100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	エコ教養 I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Human Study I	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>将来や学校生活においての目標を明確にし、目指す職業に就くための人間力を養い、社会で通用する社会人基礎力を身に着ける。学校生活をスムーズに送るための人間関係構築、スケジュール管理、業界への理解を深めるため、イベントの準備から運営、グループワークを通してのディスカッションやコミュニケーション能力の向上、制作の創意工夫や自ら考える力をつける。業界で最低限必要な犬の知識を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>学生自ら、(時間・スケジュール管理、健康管理、計画性など)あらゆる面において自己管理ができるようになる。クラスでの活動やイベントの取り組みを通して、人間関係を学び、精神的な成長を育んだり協調性を知り、社会で対応できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	学校のルール、スケジュール説明、自己紹介、キャリアサポートアンケート	16	後期スケジュール確認、前期成績について		
2	特別講義①イベントについて	17	学園祭について① 話し合い、決めごと		
3	イベント参加	18	コミュニケーション技法 コンセンサスゲーム、グループワーク		
4	イベント参加の振り返り 犬種クイズ①	19	学園祭について② 話し合い、決めごと、制作物		
5	世界環境DAY、SDGsについて考える。	20	コミュニケーション技法② コンセンサスゲーム、グループワーク		
6	スポーツフェスタについて① 話し合い、決めごと	21	特別講義④災害救助犬		
7	スポーツフェスタについて② 話し合い、決めごと、制作物	22	コミュニケーションスキルアップ検定		
8	校外実習について	23	ホスピタリティコーディネーター養成講座②		
9	試験・補習・単位取得についてのガイダンス 犬種クイズ②	24	We are ECO① 概要説明		
10	特別講義②グレイグ・マレー氏	25	We are ECO② 話し合い、決めごと		
11	特別講義③アニマルセラピー	26	We are ECO③ 準備・練習、今年1年を振り返って		
12	ホスピタリティコーディネーター養成講座① 犬種クイズ③	27	We are ECO④ 準備・練習		
13	ホスピタリティコーディネーター養成講座② 犬種クイズ④	28	ホスピタリティコーディネーター養成講座③		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	後期振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜レポート・課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	ホスピタリティコーディネーター教本				
評価方法・基準	出席率90%、提出物・イベント出席含む授業態度10%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Sports Festa	開講期間	前期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の準備等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。</p>				
到達目標	<p>スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につながるように記録を残す	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Open Campus	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>毎年1回開催される学園祭を通じ、企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。</p>				
到達目標	<p>イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				